資料３

リスク分析評価結果表（記載例）　（1／1）

アセスメント実施メンバー
甲、乙、丙、丁

労働安全衛生管理責任者	労働安全衛生担当GL
承認	審査

リスク管理担当部署長	リスク管理担当部署課長	リスク管理担当部署	リスク管理担当部署担当者
承認	審査	事業部／部署名	作成
		製造課、薬液塗布	

№	作業名又は設備名	作業内容	危険源(ハザード)	危険源の分類	リスク内容	①作業区分	②事故の型	③情報源	法規制 該当	法規制 非該当	S	F	P	M	R	レベル	対策	実施責任者	対策期日	再リスク評価（予測） S	F	P	M	R	レベル	法規制 該当	法規制 非該当	法規制の遵守	備考
1	A号機 バックコーター	バックコーターの点検、洗浄作業	点検・清掃作業場にある送液ホース	1	点検、洗浄時送液ホースが架台をはっている為、気がつかないとつまずき転倒する	1	2	4		○	1	2	2	1	3	II	送液ホースを架台下を通し作業場には置かない	甲	8月	1	2	0	5	-3	I		○	-	
2	B号機 バックコーター	バックコーターの点検、洗浄作業	点検・清掃作業場にある送液ホース	1	点検、洗浄時送液ホースが架台をはっている為、気がつかないとつまずき転倒する	1	2	4		○	1	2	2	1	3	II	送液ホースを架台下を通し作業場には置かない	甲	9月	1	2	0	5	-3	I		○	-	
3	B号機 バックコーター	バックコーターの点検、洗浄作業	点検・清掃時邪魔になるタンク	1	回収タンク洗浄時タンクが架台下にあるため下向き作業のやりにくい姿勢で洗浄するため　落下しけがをする	1	2	4		○	3	2	2	1	11	II	トンネルに不要なタンクがあるため撤去して トンネル内で洗浄するようにする。	甲	10月	1	2	1	5	-2	I		○	-	
4	B号機コーター	コーターの点検、洗浄作業	通路床面を横切っている配線	2	ロータリーポンプの配線コードが通路床面を通っている為つまずき転倒する	1	2	4		○	1	4	2	1	5	II	循環系を改造し ロータリーポンプを使用しないようにする。	乙	1月	1	0	0	5	-5	I		○	-	
5	B号機コーター	コーターの点検、洗浄作業	通路床面を横切っているホース	1	温水タンクドレーンホースが通路床面を通っている為つまずき転倒する	1	2	4		○	1	4	2	1	5	II	ホースの上に渡り台を設置し、通路のホースを撤去する	丙	7月	1	4	1	4	1	I		○	-	
6	B号機コーター	コーターの洗浄作業	重い受皿	1	洗浄時受皿を外す際重い為、手がすべり足の上に落下しけがをする	1	1	5		○	1	2	2	1	3	II	受皿の取り外し作業を無くす	甲	1月	1	0	0	5	-5	I		○	-	
7	B号機ワインダー	塗布欠点を発見したら、合紙を投入する作業	回転しているロール	1	欠点を検出したら、急いで治具で回転している合紙を巻取りに入れる時、回転している巻取りに体をぶつけてけがをする	1	8	5		○	6	4	4	1	47	III	自動ラベル挿入装置を導入する	乙	8月	1	0	0	5	-5	I		○	-	
8	B号機ＣＨ	通行作業	通路側にはみ出しているエンビ配管	1	不要エンビ配管が通路側にはみ出している為、通行時体をぶつけけがをする	1	3	5		○	1	2	2	1	3	II	通路側の配管を撤去する	乙	5月	1	0	0	5	-5	I		○	-	
9	B号機ＣＨ	清掃作業	清掃作業時狭い足場	2	フードを清掃する時足場が無い為 墜落しけがをする	2	1	5		○	3	1	2	1	8	II	足場を設置する	乙	12月	1	1	0	4	-3	I		○	-	
10	B号機コーター	点検作業	通行時飛び出しているダクト	1	点検時、ダクトに頭を激突しけがをする	1	1	5		○	1	2	2	1	3	II	保護材を取り付け、ぶつかってもけがをしないようにする	乙	5月	1	2	1	3	0	I		○	-	
11	A号機５本コーター	点検、洗浄作業	作業場に飛び出しているガイドロール	1	コーター手前ガイドロールに頭を打つ	1	1	5		○	1	2	2	1	3	II	保護材を取り付け、ぶつかってもけがをしないようにする	丙	4月	1	2	1	3	0	I		○	-	
12	A号機バックコーター	点検、洗浄作業	作業場に飛び出しているガイドロール	1	バックコーター後ガイドロールに頭を打つ	1	1	5		○	1	2	2	1	3	II	保護材を取り付け、ぶつかってもけがをしないようにする	丙	4月	1	2	1	3	0	I		○	-	
13	A号機ワインダー	サンプリング作業	足場の狭い架台	1	架台の手前が短いため フレームに足を掛けるとき踏み外しけがをする	1	1	5		○	1	4	2	1	5	II	足場を拡大し、降りやすいようにする	乙	1月	1	4	1	3	2	I		○	-	
14	A号機C/R	点検作業	保温カバーの無い蒸気配管	1	ヒートロール配管が裸になっている為体が触れるとやけどする	1	2	5		○	1	2	2	1	3	II	保温材を設置して、触っても火傷をしないようにする	甲	6月	1	2	1	3	0	I		○	-	
15	A号機コーター	点検作業	足場の狭い架台	1	架台から降りるとき足場が無い為足をひねりけがをする	1	17	4		○	1	4	2	1	5	II	足場を拡大し、降りやすいようにする	丙	8月	1	0	1	4	-3	I		○	-	
16	A号機コーター	点検作業	自動作動のクリーナーシリンダー	1	クリーナー本体が自動シリンダで点検時近寄ると手をはさみけがをする	1	7	5		○	3	4	6	1	29	III	シリンダーカバーを設置し、はさまれないようにする	甲	4月	1	4	0	4	0	I		○	-	

リスク査定テーブル

S：けがの重大性		F：危険に遭遇する頻度		P：けがの可能性		M：防護のレベル		R：リスクカテゴリ			
評価点	危害程度のイメージ	評価点	頻度程度のイメージ	評価点	可能性程度のイメージ	評価点	安全対策程度のイメージ	レベル		R＝S×（F＋P）－M	
10	致命的傷(死亡又は傷害)	4	頻繁（1回以上／時間）	6	確実になる	5	本質安全	V	100～76	許容できない	改善領域
6	重傷（入院レベル：休業災害）	2	時々（1回以上／日・直）	4	十分考えられる	4	フェールセーフ機器・ガード	IV	75～51	重大な問題あり	
3	軽傷（病院治療レベル：不休業災害）	1	めったにない（1回以上／年・月）	2	考えられる	3	保護具	III	50～26	問題が多少あり	
1	微傷（赤チン災害）	0	ない	1	ほとんど考えられないが0では無い	2	一般の検出機器	II	25～ 3	許容できる	維持領域
0	傷害なし			0	ない	1	表示警告・教育訓練	I	2以下	無視できる	

危険源の分類
1. 機械的
2. 電気的
3. 熱的
4. 放射的
5. 不安全行動
6. 化学的
7. 作業環境

①作業区分
1. 定常
2. 非定常
3. 緊急

②事故の型		
1. 墜落・転落	8. 巻き込まれ	13. 爆発
2. 転倒	9. 切れ・こすれ	14. 破裂
3. 激突	10. 高温・低温の物との接触	15. 火災
4. 飛来・落下		16. 交通事故
5. 崩壊・倒壊	11. 有害物との接触	17.動作の反動、無理な動作
6. 激突され		
7. はさまれ	12. 感電	18. その他

③情 報 源
1. 関連法令
2. 過去労災、事故
3. 赤チン災害
4. ヒヤリハット
5. 不安全箇所摘出
6. 技術データ
7. その他

＊本質安全＝（危険源の排除／その作業を無くす）　＊フェールセーフ＝（主に設備への二重・三重の安全対策）安全側に働く